

Mer

メール

Vol. 14

2013. March

人と地球のうらおいマガジン

大阪市下水道科学館 インフォメーション

防災展が開催されました

平成7年1月17日に発生した「阪神淡路大震災」および平成23年3月11日の「東日本大震災」を教訓にした防災展を開催。大地震・津波などに対する備えや、ゲリラ豪雨・雷雨のメカニズム、大阪市降雨情報の入手方法などを展示しました。また、気象庁のDVDにより「防災の備え」や、津波発生装置による津波のメカニズムの学習、防災グッズの紹介なども行われました。

イベント情報

こどもの日の集い 5月5日(日)
科学館フェスタ 6月9日(日)

この2つのイベントでは、「微生物の観察と水質実験」、「人形劇」、「クイズラリー」、「ダーツゲーム」などを実施予定。参加費は無料です。



津波発生装置



DVD上映中



防災展内部



防災グッズ



- ◆所在地 〒554-0001 大阪市此花区高見1丁目2番53号
- ◆電話 06-6466-3170
- ◆FAX 06-6466-3165
- ◆開館時間 午前9時30分～午後5時
(入館は午後4時30分まで)
- ◆休館日 毎週月曜日(月曜が休日の場合は翌日)、年末年始
- ◆入館無料 ◆無料駐車場あり
- ◆大阪市下水道科学館ホームページアドレス
<http://www.city-osaka-sewerage-museum.or.jp/>
- ◆アクセス
 - ・阪神電鉄「淀川駅」下車 徒歩約7分
 - ・地下鉄「野田阪神駅」下車 徒歩約15分
 - ・JR西九条駅から市バス82号「高見一丁目」下車すぐ
 - ・JR東西線「海老江駅」下車 徒歩約15分



Merとは

「Mer(メール)」とはフランス語で「海」を意味する言葉。命を育んだ海と、メッセージを伝える「メール(Mail)」の音を重ねています。この冊子では、これからも水という大切に身近な存在を通して、私たちの暮らしと未来について考えていきます。

人と地球のうらおいマガジン・メール2013年3月号

発行 財団法人 都市技術センター

〒541-0055 大阪市中央区船場中央2丁目2番5号-206

船場センタービル5号館2階

TEL 06-4963-2056

<http://www.uitech.jp/>

清流紀行 P02
「布引溪流」(神戸市)

ガイアの瞳 P04
「世界の水・環境を改善する大阪・関西の技術力」

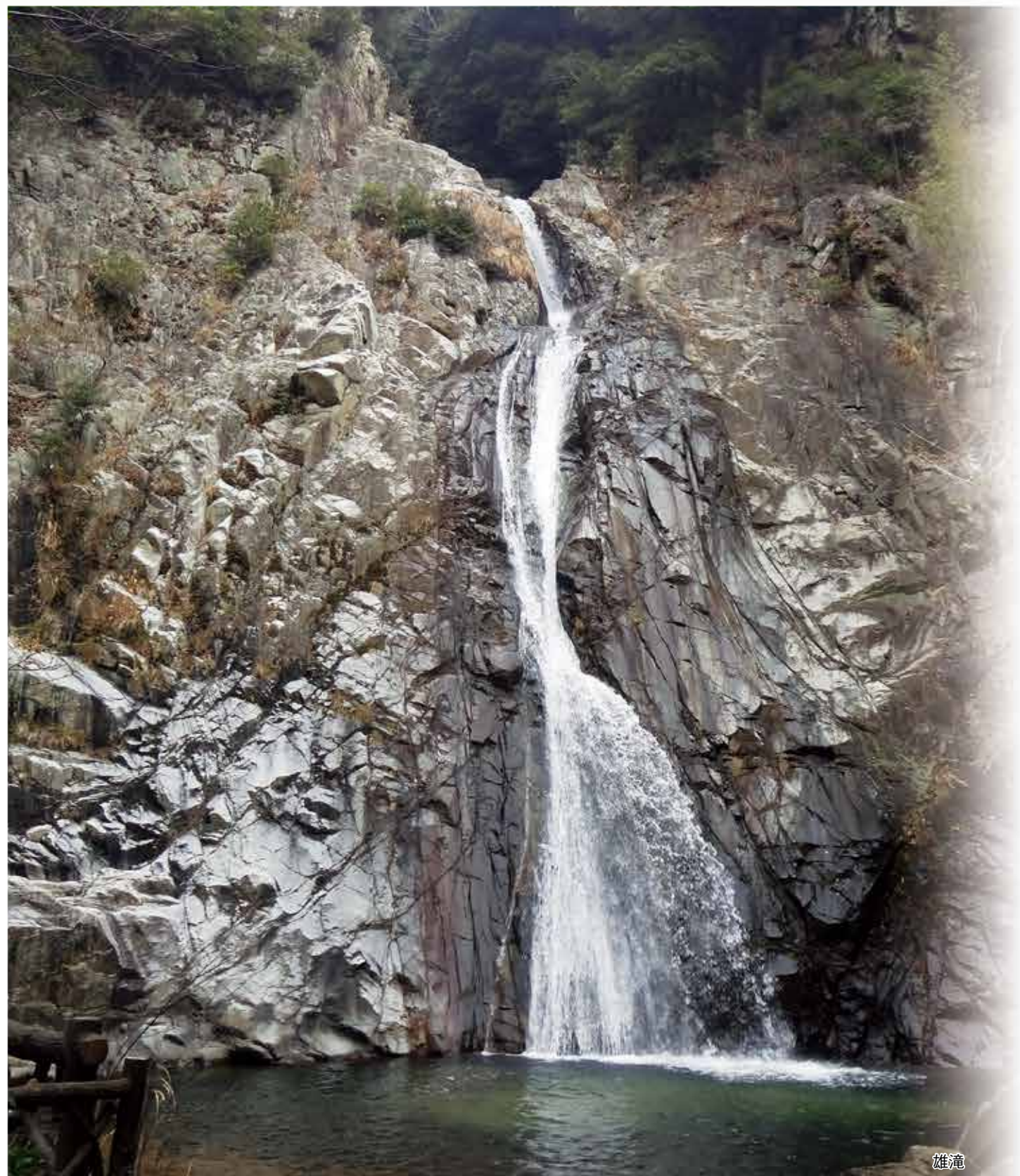
水人之交 P08
「近木川 ワースト1からの再生」(貝塚市)

大阪府内の下水道情報 P12

センターだより P14

清流紀行

竜宮伝説が残る
古からの景勝地
布引溪流(神戸市)



「赤道を越えても水が腐らず、とても良質でおいしい」布引の水は、神戸港を訪れた海外の船乗りの間で「コウベウォーター」として親しまれていました。六甲山系の摩耶山、再度山を水源とする生田川の中流域に位置する布引溪流の水は、現在も名水百選のひとつに指定されています。

清冽な水が流れる布引溪流には、夫婦滝、雄滝、鼓滝、雌滝の4つの滝があります。この4つを合わせた総称が、日光の華厳の滝、紀州的那智の滝とともに日本三大神滝のひとつに数えられている布引の滝。その名は白く美しい布を垂らしたように見えることに由来し、平安時代の歌集「伊勢物語」や「栄花物語」をはじめとする多くの物語や詩歌に取り上げられてきました。

別れた流れが一つになる夫婦滝、鼓のような滝音から命名された鼓滝、しなやかで上品な雌滝。布引の滝を形成する滝はいずれも趣を異にした魅力的な景観ですが、最も有名なのは竜宮伝説が伝わる雄滝です。

落差43mを5段に折れながら落下する雄滝。各段を形成する岩には、急な崖を流れる水と岩石が数十万年かけて削った罅穴があります。深さが6m以上に達しているものもある5つの穴は、古くから滝姫宮、白竜



夫婦滝



鼓滝



雌滝

宮、白髭宮、白滝宮、五滝宮と呼ばれ、宮に住む乙姫様が龍神となって海へ出かけ、多くの船を守ったと言われています。この竜宮伝説は「源平盛衰記」にも登場しており、平清盛の長子重盛の家臣である難波経俊が滝壺へ飛び込み、水底の竜宮城へ行った話が残されています。経俊は竜宮城で機織りの大女に出会い、地上に戻って自分が見た話をしたところ、にわかには雷雨が起り、雲に巻かれて轟音とともに絶命したそうです。

現在、布引溪流には遊歩道が整備されています。途中には、平安時代から江戸時代に詠まれた、布引の滝ゆかりの三十六名歌の碑が建てられており、古人の思いを感じながら散策することもできます。また、布引溪流を登って行くと、溪流に水を送っている布引ダム(布引五本松堰堤)へ到着。このダムには放水路としてできた滝があり、ダムがオーバーフローしたときだけ滝水が流れる「五本松かくれ滝」があります。

市街地から近く、四季折々に訪れることができる布引溪流。その美しい景観は、癒しの空間を演出しています。



場所／布引溪流
アクセス／神戸市営地下鉄、北神急行電鉄、JR山陽新幹線の「新神戸駅」から徒歩約10分

ガアの瞳

世界の水・環境を改善する 大阪・関西の技術力

世界各地の人口増加により、水資源の確保はこれまで以上に重要な課題となっています。このような状況をビジネスチャンスと捉え、大阪では長年培った技術力を背景にしたオール関西の取り組みが進められています。

大川(桜宮周辺)

世界中が注目している水ビジネス

地球上には14億立方キロメートルもの膨大な量の水が存在していますが、その約97%は海水。残りの3%の淡水も、その多くが北極や南極の雪や氷、地下深くの伏流水であるため、私たちの生命や産業活動に利用できる水は、全体の0.01%に過ぎません。また、そのわずかな水も、降水量や河川の流量が異なるため、地域によって偏りがあります。2006年の国連開発計画の予測によると、約7億人が水ストレスを感じる生活(人口1人あたり最大利用可能水資源量が1,700立方メートル以下の水準)をしており、2050年には10億人もの人が水不足に直面すると見込まれています。また、量的な不足や地域への偏在性だけでなく、上下水道といった水関連施設が整備できていないことから、約11億の人が安全な水にアクセスできない状況にあります。トイレの汚水処理など、適切な衛生状態にない地域の人口は約24億人で、不衛生な水によって年間1千万人が死亡しています。

水不足が世界的な問題となる中、各国では水インフラの整備が進められています。これをビジネスチャンスと捉え、世界中の多くの企業が上下水道設備や海水の淡水化プラントの建設・運営事業、工場排水の浄化事業、浄水器製造事業といった水に関連する事業に進出。経済産業省の水ビジネス国際展開研究会の報告によると、その規模は2007年時点で約36兆円と言われ、2025年には約87兆円に成長すると予測されています。

現在、世界の水ビジネスへは多くの企業が参加しており、中でもヴェオリアやスエズといった水メジャーと呼ばれる企業が市場に強い影響力を持っています。一方、日本は優れた技術を有しながらも、思ったような参画を果たせていません。その理由は、日本ではライフラインに関する事業は行政が担ってきたため、民間企業は高い技術力を持ちながらも管理・運営に関するノウハウが乏しいためと考えられています。事業の運営・管理までを担うトータルなサービス提供が要求されるグローバル市場において、海外の企業と渡り合うトータルパッケージとしての力を発揮することができていませんでした。

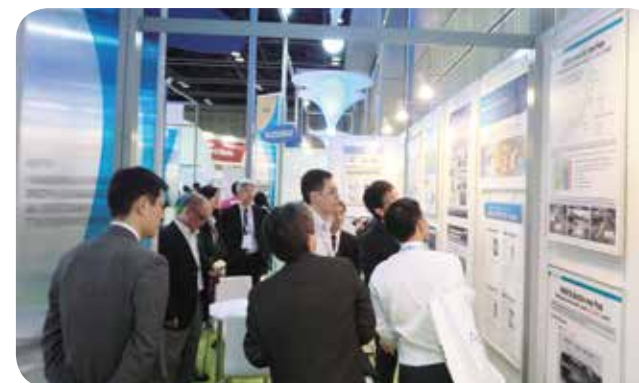


蓄積されたノウハウを生かすために

2011年4月、世界の水ビジネスが海外企業に席卷されている中、大阪・関西がオール体制で臨む「大阪 水・環境ソリューション機構(以下OWESA)」が発足しました。

元々、大阪は上下水道ともにいち早く整備された歴史があります。下水道は安土桃山時代に豊臣秀吉が大坂のまちづくりを進めるにあたって整備した太閤下水(背割下水)まで遡ることができ、近代になってからもコレラやし尿の処理、ごみや工業排水の処理など深刻な問題を克服。日本トップの普及率で進捗してきました。上水道も国内で4番目に整備された都市で、一時期、「大阪の水はカビ臭い」と言われた時代もありましたが、水質の向上に努めた結果、現在では世界に誇る水を提供するレベルに到達。特に平成12年(2000年)には市内全域へ高度浄水処理水の通水が開始され、カビ臭などの異臭味は完全に除去。病原性微生物に対する安全性も強化されました。また、長年の経験で得たノウハウは、発展途上国の課題解決や人材育成として活用。上下水・環境分野での国際貢献として、国際協力機構(JICA)などを通じた専門家の派遣や、途上国からの研修生の受け入れも実施してきました。

このような大阪の発展を支えた確かな技術と国際貢献の実績を背景に、官民連携のプラットフォームとして



シンガポール国際水週間水エキスポの様子

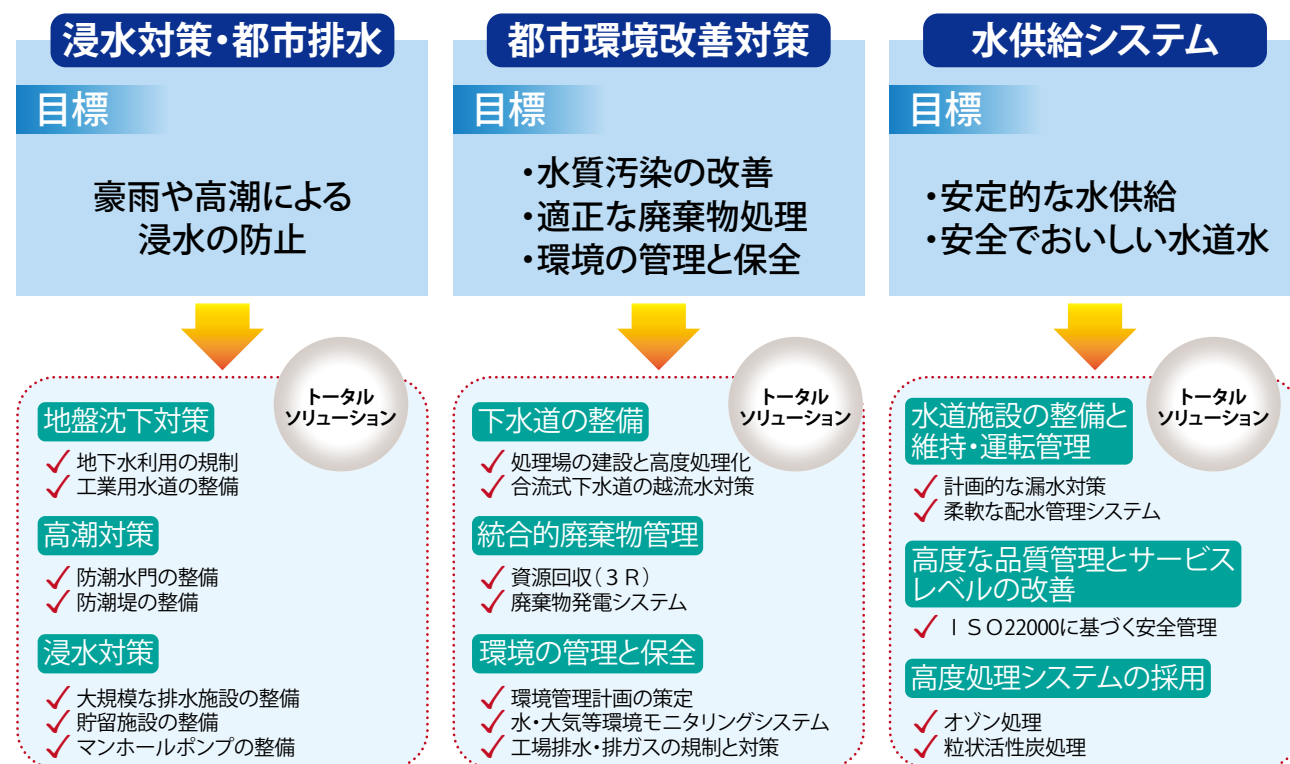
誕生したのがOWESAです。参加メンバーは大阪市の5局(建設局、水道局、環境局、経済局、政策企画室)と関西経済連合会、大阪商工会議所。その後、大阪府の2部(商工労働部、都市整備部)も加わりました。事務局は過去20年にわたり下水道技術・都市排水のJICA研修の運営を行ってきた(財)都市技術センターが担当することとなりました。

海外の水・環境問題の解決を目指して

OWESAの活動方針は①案件形成・事業化支援 ②事業受託支援 ③海外プロモーションの3つです。

①は大阪府・市と海外の都市間の外交および技術交流などを通じて、水・環境に関する現地調査やヒアリングを実施。ニーズを把握し進出できる案件を模索します。OWESAが持つ情報は、必要に応じて経済団体を通じて民間企業へ発信され、民間企業から要請のあった案件は、内容を検討した上で官民連携のチームを形成します。案件が形成されれば②に移行し、どのような体制で進めるかを検討。状況に応じた支援を行っていきます。③は大阪府・市が過去に水・環境問題を克服してきた経験やノウハウおよび、大阪・関西企業の高い技術力を海外に向けて宣伝することで、ホームページやパンフレットなどを通じて情報を発信しています。また、民間企業に対しては、国際見本市などへの共同出展や国内外でのセミナー開催などを通じて、海外での受注につながるビジネスマッチングの機会を提供。その他にも、海外からの研修や視察の受け入れなども実施します。

OWESA初の出展は平成23年5月に開催された中小企業総合展。「KANSAIから始まる水ビジネスの新たな挑戦」と題した特別展示コーナーを設け、水道・下水道・環境分野において大阪市がこれまで直面した課題と克服してきた歴史や、大阪市が有する技術などについて紹介し



ました。7月には、水分野では有数のイベントであるシンガポール水エキスポにて、初の海外出展も実施。アジア、欧米をはじめとする海外からの出展者が多く参加する中、「琵琶湖・淀川水系の高度循環利用を支える技術」と題した、官・民が持つ技術とノウハウを発信しました。

ホーチミン市における取り組み

人口600万人を超えるホーチミン市は、大阪市と同じく海面よりも低い平地が多いのが特徴。海水位の上昇と降雨の増加という気象変動もあり、深刻な浸水問題が発生しています。また、急速な工業化と都市化が進んだ結果、近年は産業排水や生活排水が急増。河川で魚が暮らせなくなるほど、水・環境問題が深刻化してきました。また、上水道についても高い漏水率などが問題となっており、中には断水に陥ってしまう地域もあります。

このような問題を解決するため、OWESAは案件形成・事業化支援に向けた官民連携調査を実施。「断水の原因は漏水だけでなく、配水のシステムにもあります。ホーチミン市では浄水場から全エリアに水を一気に送るため、末端の地域に水が届かない。そこで、各エリアに浄水場からの水を集める配水池を設け、受け持ちのエリアに水を給水する配水コントロールシステムの提案が有効ではないかと考えています」とOWESA事務局の間瀬次長は話します。今後は現地企業との特別目的会社の設立などを視野に入れており、提案の事業化に向けた展開を進めています。

一方、下水道に関しては、浸水対策を柱とした基礎調査を実施しています。ホーチミン市の下水道は、フランス植民地時代の1870年代に整備された合流式。老朽化が進み、メンテナンスも十分でないため排水能力が不足して

平成24年度調査案件	
上水道	ホーチミン市給水改善調査（JICA 公募案件） 大阪市水道局、東洋エンジニアリング（株）、パナソニック環境エンジニアリング（株）、（株）日水コン、プライスウォーターハウスクーパース（株）
下水道	ベトナムにおける PPP 手法による都市浸水対策事業導入可能性検討業務（国土交通省公募案件） （株）オリエンタルコンサルタンツ、パシフィックコンサルタンツ（株）、大阪市建設局、（財）都市技術センター 他
廃棄物	ベトナム・ホーチミン市における固形廃棄物の統合型エネルギー回収事業（環境省公募案件） （株）日立造船、（株）エックス都市研究所、大阪市環境局、（公財）地球環境センター



ホーチミン市の現地調査



ホーチミン市の浸水状況

います。この課題解決の手法として、大阪市が長年培ってきた「抜本的な浸水対策」や「きめ細かな浸水対策」などのノウハウを生かし、都市浸水対策のモデルプロジェクトの提案およびPPP手法の都市浸水対策への導入の可能性について検討を行っています。

廃棄物に関する取り組みとしては、現在ホーチミン市で、含水率の高い廃棄物に対応した統合型廃棄物発電について、焼却の前処理部分を含めた技術面の評価および、製造の現地移転による低コスト化の可能性、廃棄物処理費や売電収入の適正化を含めた事業性評価を行い、事業提案を行っています。

確かな技術力で世界に挑戦

ホーチミン市のように植民地時代に造られた途上国の下水道は、ほとんどは合流式が採用されています。そのため、合流式下水道改善の知識・技術・経験を持つ大阪にとってビジネスチャンスの可能性は広がっています。また、OWESAでは、下水道自体がない地域についても1本の管で浸水対策と汚水対策ができ、コストも安い合流式を採用する国や都市が多いのではないかと考えています。もちろん、「日本の下水道の設計指針では「原則は分流式」とあるため、整備当初から合流式を提案するのはおかしいのでは？」という意見もあります。しかし、途上国の立場からいえば、整備に時間がかかる分流式を選択すると、下水道の普及が進まない。何よりコストがか

かるために避けたいのが現実的な考え方といえます。実際、最初は合流式下水道を整備し、将来的に分流式に切り替えていく段階性を持った計画を検討している国もあるようです。

上水道の漏水率が40～50%という国もある中、日本は一桁台。これを見ても分かるように、日本の技術は世界最高クラスです。大阪に目を向けても、おいしい水をつくる高度浄水処理技術をはじめとする、途上国のニーズに応える確かな技術があり、下水道では、既設反応槽を簡易な改造により、雨天時の活性汚泥処理能力を3倍にする「雨天時下水活性汚泥処理」などの合流式下水道改善手法を始めとして、独自のノウハウを持っています。また、廃棄物の分野についても、適正な廃棄物処理や資源回収、発電システムといった大阪が蓄積してきた豊富な技術や経験があります。

間瀬次長は「水ビジネスの案件は多くが競争入札制度のため、安価な提案をしてくる他国に金額面では押され気味ですが、この大阪オリジナルのノウハウを生かした世界最高峰のパッケージを提案することで受注につなげたい」と4月で3年目を迎えるOWESAの抱負を語ります。そのためにも現在、バラエティーに富んだパッケージが提案できるよう関西の民間企業が持つ個々の技術やニーズを集めているそうです。

大阪・関西が持つ世界最高の技術力。このチカラが各地で展開されるとき、世界の水環境はきっと変わっているはずです。

大阪とホーチミン市の関係

大阪とホーチミン市の結びつきは以前から強く、1995年に大阪府が「大阪府とホーチミン市との産業・貿易・投資に関する交流協定」を締結。経済ミッションの派遣、大阪企業のベトナム進出支援などを行い、経済面を中心とした交流を行ってきました。その後、2007年には友好交流協定に調印し、経済以外の多方面にわたる友好関係の構築も目指しています。大阪市もアジア太平洋地域における経済ネットワークを構築するため、1997年にビジネス・パートナー都市提携を結び、民間レベルでの国際経済交流を促進しています。

水環境の分野においては、2011年に環境と水管理に関する協力をより一層深める覚書を締結。上水道、下水道、廃棄物の3分野において、官民連携による事業を進めています。また、ベトナムからの技術研修の受け入れも開始し、より一層の交流を目指しています。

OWESAホームページ <http://www.owesa.jp/>

水交

すいじんの
まじわり

こぎ 近木川 ワースト1からの再生 (大阪府貝塚市)

平成5年と9年の2回にわたり、全国ワーストの水質を記録した近木川。「全国の二級河川で水質最悪」の汚名を返上するため、市民主体の環境美化活動がスタートしました。あれから15年以上が経ち、近木川はどのような姿になっているのでしょうか。



「ワースト1」の報道

近木川とは、標高858メートルの和泉葛城山に端を発し、貝塚市のほぼ中央を流れる全長約18キロメートルの二級河



川。上流部には国の天然記念物に指定されているブナの原生林、河口には大阪府下にわずかに残る海水浴場である二色の浜があります。流域に住む人は、古くから生活用水・農業用水として利用しており、特に灌漑用水の効率的な確保を目的とした「ため池」の大半が近木川から取水されていました。

人々の暮らしを支え続けてきた近木川ですが、流域の都市化に伴う生活排水や工場排水などの影響により、水質が悪化。環境省の水質に関する調査では、平成5年度に全国ワーストとなるBOD値（※）を記録し、新聞などでも「全国の二級河川で水質最悪」と報道されました。これを受け、貝塚市は「第1回近木川市民フォーラム」を平成7年2月に開催。当時、市職員として貝塚の自然や環境問題を学習する拠点「貝塚市立自然遊学館」を担当していた橋本夏次さんは、「フォーラムの参加者全員が、『ワースト1は貝塚の恥。この汚名を何としても返上しなくては』と感じていた」と当時を振り返ります。このフォーラムをきっかけに、地元の子どもたちが近木川の清掃活動や自然観察をする「近木っ子探検隊」が発足。多くの市民や地元ボランティア、市議員、市長が参加する清掃活動も開始されました。また、近木川に生活排水を流す地域へは、台所の排水溝に食用油を流さない、生ごみを廃棄しないといった生活排水改善の協力を要請。投棄された自転車やバイクが数十台も引き上げられるような状況にあった近木川は、平成9年度にも全国ワースト1になりましたが、その後は徐々にBOD値も改善されていきました。

※BOD値…生物化学的酸素要求量。水中の有機物が微生物の働きによって分解されるときに消費される酸素の量。河川の有機汚濁を測る代表的な指標。



将来を見据えた学校教育

水質浄化の取り組みが進められる中、小・中学校では





上流の水間を流れる近木川



水間寺と近木川



河口部にあたる二色の浜

近木川を扱う環境学習も行われるようになりました。平成8年ごろからは市の職員が学校へ出向き、市内の環境について伝える出前教室も実施。近木川の水質浄化を目指す市と学校との間に良い関係が構築されていきました。出前教室に出向いていた橋本さんは、「これを機に、学校と自然遊学館をつなぐことはできないかと考え、自然が好きな小・中学校の先生方の協力を得て生まれたのが近木っ子会議です」と話します。近木川の観察や清掃をする集まりである近木っ子会議の事務局は市の職員が担当。子どもと川のふれあいを支えました。「川遊びを通じて近木川に興味を持つ。そんなところから近木川がきれいになってほしい、というのが私たちの願い。小学4年生の子どもが『近木川守る隊』を発案し、自分で作ったチラシで友達に呼びかけて清掃活動してくれたこともありました」と橋本さんは語ります。

近木川を通じた環境学習は、確実に子どもたちの心に浸透していきました。平成11年の近木川市民フォーラムでは、参加した子どもから「ぼくたちが遊べる近木川

をつくってください」という提案があり、子どもを中心としたまちづくりを行う「近木川流域自然大学 海・山・川の分校」構想へと発展しました。これは近木川の流域を環境学習の場（分校）と捉え、臨海部の自然遊学館が「海の分校」、市内山間部の体験施設「ほの字の里」を「山の分校」、近木川中流にある清児橋付近を子どもの参画で進める「川の分校」として、まちづくりを進めるというもの。この計画は貝塚市の施策に採用されました。

近木川流域自然大学 海・山・川の分校は、「かつて存在した、人と自然とのいい関係の再構築」を目指して活動。農業や漁業の昔の様子の調査や、環境学習の出前教室、情報提供などを実施。これらの活動が認められ、大阪湾に関する環境保全活動に取り組む団体などから、特に優れた活動を表彰する「魚庭の海」を受賞しました。



川づくりから生まれた絆.....

2度にわたって全国ワースト1となった近木川の水質

は、子どもたちをはじめとする多くの市民の活動により、少しずつ改善されていきました。かつて25を記録したBOD値も、平成14年度からは一桁台となり、平成21年度には3.9まで減少しました。

こうした積極的な「川づくり」から提案されたのが、近木川汽水ワンドの形成です。汽水とは、川の水（淡水）と海水が入り混じる水域のことで、ワンドとは入り江や川のよどみ、水たまりを意味します。近木川にさまざまな動植物の住み家となる「汽水ワンド」を作り、遊びの場、憩いの場としてだけでなく、貴重な生態系を保全するこの提案は、平成15年に大阪府が事業化。ワークショップや模型実験を重ね、平成16年度に工事が始まりました。近木川汽水ワンドは、自然な川の流れと潮の満ち引きにより、少しずつ干潟が形成されていくのを待ち、平成28年ごろに完成を予定しています。

驚きと危機感から始まった近木川の水質浄化の取り組みは、今や環境学習を通じて「川づくり」へと発展を遂げました。川で思い切り遊び、学ぶことの大切さ。貝塚市の子どもたちに根付いた思いは、将来の美しい河川環境につながっています。10年以上にわたり近木川の取り組みをコーディネートした橋本さんは、これまで届けられた子どもたちからのメッセージを振り返り、「近木川で活動した子どもたちは、原体験が人間形成の基礎を築くものであることを、身を持って表現してくれました」とコメント。そして、かつて存在した「近木川と人とのいい関係」に学びきっかけや、河川法の改正が目指す「日本の川を取り戻す」ための「川に学ぶ社会」の実現へと導いてくれたと話します。

近木川の活動は、子どもと川、人と人に新たな絆を生みました。この宝物を継承していくため、橋本さんは愛知産業大学大学院の造形学研究科建築学専攻修士課程で学び、近木川の活動の成果やすばらしさを修士論文で発表しました。今後は、子どもたちの活動を近木川の「川ガキ」文化として全国に発信していきたいと考えているそうです。「近木っ子会議などを通じて成長した子どもたちと、近木川での活動ができれば良いですね。そして、私に替わるコーディネーターになって、次の子ども



下流域にも豊かな河畔林があります

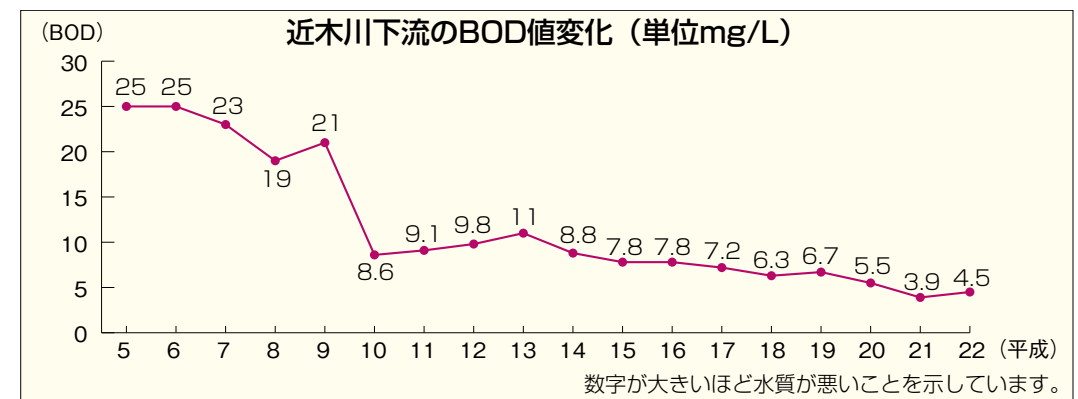


近木川で遊ぶ子どもたち



干潟が形成されつつある近木川汽水ワンド

たちに川の大切さ、すばらしさを伝えてほしい。もちろん私も体の続く限りこの活動を続けていきます。それは高卒の私が大学院を修了させていただいた、子どもたちへの恩返しでもあります」。ワースト1になったゆえに生まれた絆が、いつまでも近木川と子ども達の笑顔の源になってほしいと願います。



池田市下水処理場
高度処理化事業を推進しています

池田市下水処理場は昭和43年に供用を開始し、順次施設の整備を進めてきました。平成13年度末には、池田市の下水道普及率は99.9%に達し、現在は「大阪湾流域別下水道整備総合計画」との適合を図り、施設の高度処理化を進めています。

高度処理化事業については、二系水処理施設を対象に平成18年度に着手し、平成24年度末で完了予定となっています。今後は一系水処理施設の高度処理化を計画すると共に、効率的に施設を運用していきます。



反応タンク



急速ろ過施設

池田市下水処理場の高度処理施設の特徴

二系高度処理施設の概要

<処理方式>
凝集剤併用型循環式硝化脱窒法
(担体投入・ステップ式)+急速ろ過

<処理能力>
39,400 m³/日

<計画処理水質>
BOD: 3.6 mg/L
SS: 2.0 mg/L
T-N: 6.7 mg/L
T-P: 0.44 mg/L

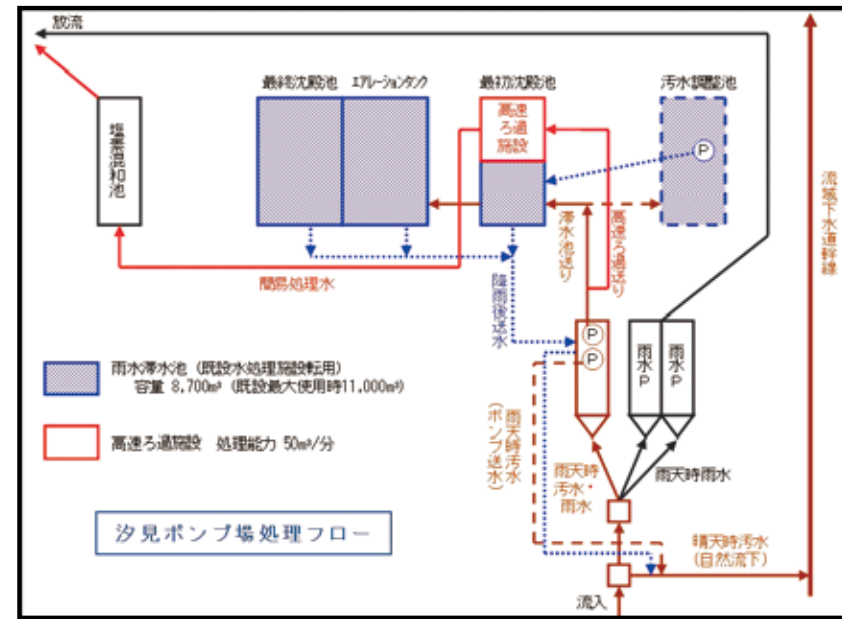
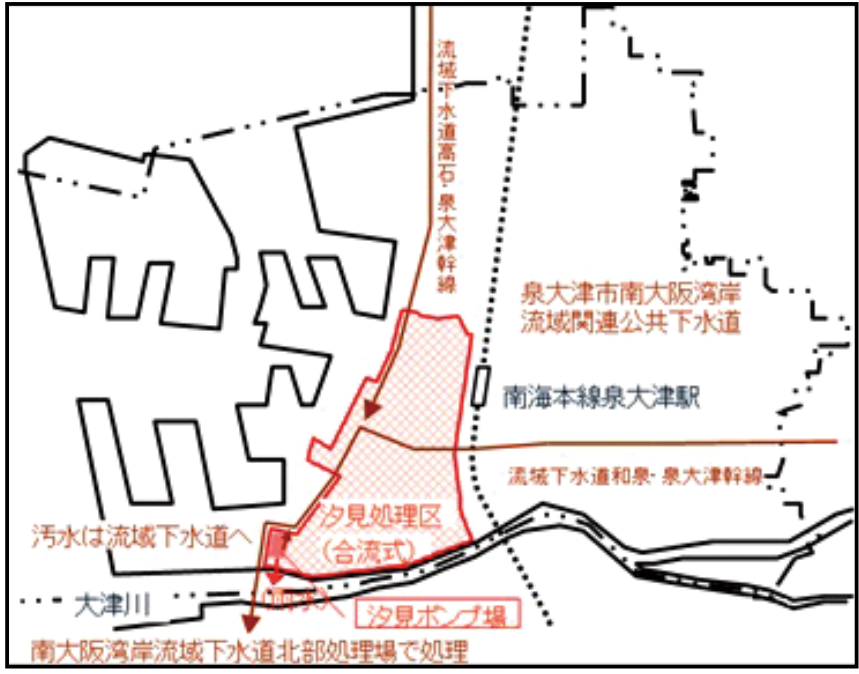
- **好気槽への担体投入**
担体に硝化菌を保持することにより、少ない好気槽容量で効率的に硝化を行います。
- **無酸素槽の攪拌機からの空気注入**
無酸素槽の攪拌機からの空気注入を行い、擬似的な好気槽として運用が可能で、処理状況によって使い分けができます。
- **急速ろ過に長繊維ろ材を使用**
RC構造のろ過施設に比べて施設容量がコンパクトであり、1000m³/日・基(全6基)のろ過速度での処理が可能となっています。

泉大津市汐見ポンプ場
合流式下水道改善施設供用開始!

泉大津市では、合流式下水道の汐見処理区にて緊急改善事業計画を策定し整備を行ってきた合流式下水道改善施設が平成24年4月に供用開始しました。

単独公共下水道として供用してきた同処理区の流域下水道への編入に伴い、廃止される汐見下水処理場施設を「雨水滞水池」および「高速ろ過施設」として利用することにより、雨天時に流入する雨水を滞水池に貯留し、貯留量を超える雨水は高速ろ過で処理するものです。また、滞水池に貯留した雨水は、降雨後に流域下水道管渠へポンプ送水します。

これら施設の供用により雨天時未処理下水の放流回数・汚濁負荷量が削減され、公共用水域の水質汚濁や悪臭の発生を抑制することができます。



雨水滞水池



高速ろ過施設

平成24年度 第2回下水道技術講習会を開催

昨年11月7日、大阪府都市整備部下水道室と大阪府下水道事業促進協議会の共催による第2回下水道技術講習会が、クレオ大阪中央にて開催されました。

講演内容

「浸水対策に係る事業制度と内水ハザードマップの作成・活用について」
大阪府都市整備部下水道室 事業課建設グループ 総括主査 杉本 和夫
計画グループ 主査 林 栄樹

「気候変動に対応した雨水対策について」ー 雨水対策の変遷・雨水対策への視点 他 ー
一般社団法人 全国上下水道コンサルタント協会 関西支部
下水道部会長 石川 高輝

「大阪市における浸水対策の取り組みについて」
大阪市建設局下水道河川部 調整課担当係長 正野 哲也



ホーチミン市との新たな技術協力事業の開始

当センターは、大阪市をはじめとする自治体で、高度経済成長期の下水道整備および維持管理に携わってきた職員が多数所属しており、その技術やノウハウを活用して大阪市や周辺都市の都市排水施設に関する維持管理業務を受託しています。その強みを生かし、今回、大阪市とともにJICAにJICA草の根技術協力事業（地域提案型）「ベトナム国ホーチミン市における都市排水技術向上プロジェクト」を提案。採択内定案件に選定されました。これにより、平成25年度から3年間にわたりホーチミン市の下水道管理者および下水道公社の職員に対して、当センターの職員派遣や研修員受け入れを実施。下水道管きょなどの都市排水施設の維持管理技術の向上を支援します。



平成24年度JICA研修を実施

昨年9月18日～11月22日の2カ月間にわたり、当センターの企画、運営によるJICA集団研修「下水道維持管理・都市排水コース」を実施しました。今回は10カ国10人の研修生が参加。下水処理、汚泥処理、浸水対策などに関する計画、設計、施工、維持管理などに関する講義や実習、現場視察に取り組みました。

また、下水道施設の維持管理や経営管理面の実務に必要な行政スキルなどを身につけていただく、JICA国別研修「ホーチミン市下水管理能力向上プロジェクトフェーズ2カウンターパート研修」を7月23日～8月3日に実施。さらに8月27日～9月7日にはJICA国別研修「ベトナム下水道経営」コースも開催し、経営、資産管理、官民連携の分野に関する講義などが行われました。



閉講式



講義の様子



取付管敷設工事見学



下水処理場見学



水質試験所での実習



紙面に関するご意見・ご感想をお聞かせください

「Mer」では、大阪府下を中心とした下水道情報を織り交ぜながら、水そのものや水環境、都市環境、水にかかる生産活動などに関する幅広い分野の情報を掲載しております。当センターでは、この「Mer」のより一層の紙面充実を図るため、皆様のご意見・ご感想をお待ちしております。関心を持った記事や取り上げてほしい内容・場所・地域などをご記入ください。

応募方法 メール・FAX・ホームページにて
 メール：info@owesa.jp
 FAX：06-4963-2095

都市技術センター 検索

本書を作成するにあたって、参考にさせていただいた資料一覧

- 大阪 水・環境ソリューション機構パンフレット
- JICA WEBサイト
- 大阪 水・環境ソリューション機構 提供資料
- 橋本夏次氏 提供資料
- 水ビジネス国際展開研究会「水ビジネスの国際展開に 向けた課題と具体的方策（案）」
- 大阪府WEBサイト
- 都市技術センターWEBサイト
- 大阪市建設局WEBサイト
- 大阪 水・環境ソリューション機構WEBサイト
- 環境省WEBサイト
- など